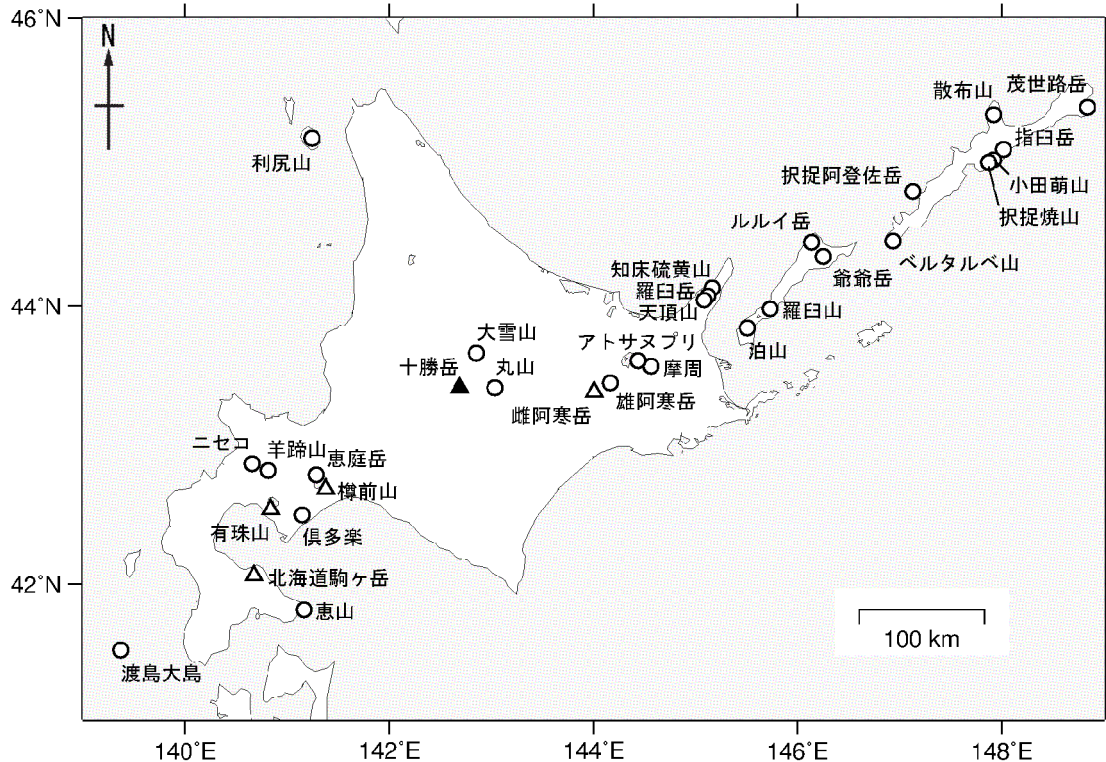


管内月間火山概況（平成26年12月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（12月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル2（火口周辺規制）	十勝岳
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、茂世路岳、散布山、指白岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



凡 例		
噴火警戒レベル対象火山	▲：噴火警報発表中	△：噴火予報発表中
噴火警戒レベル対象外の火山	●：噴火警報発表中	○：噴火予報発表中

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所及び森町のデータも利用して作成しています。

次回の管内月間火山概況（平成27年1月分）は平成27年2月9日に発表する予定です。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

十勝岳では、16日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

その他の火山では、予報事項に変更はありません。

アトサヌプリ〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口南側の地下で温度の上昇した状態が継続している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

大雪山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十勝岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕 16日に噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引上げ

2014年7月頃から、62-2火口に近い観測点で山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動の変化率が大きくなっており、膨張がさらに浅い領域にまで及んでいる可能性があります。2014年11月頃から、常時微動の振幅レベルが増大し、山体浅部の熱水活動が高まっている可能性があります。

これらのことから、ごく小規模な噴火の発生する可能性が高まっていると考えられ、12月16日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。その後、警報事項に変更はありません。

62-2火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。62-2火口から概ね1 kmの外側であっても、風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

倶多楽〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

恵山〔噴火予報（平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。